

新編水滸畫傳

四編

五

875
35



遠門
巻 351

新編水滸画傳卷之三十五

東武 高井蘭山翁 譯編

明治三十二年
十月十日 購求



○宋江神行大保不會
 偕も宋江ハ揭陽鎮の穆弘（外豪傑の面々立別）潯陽江の船不
 衆順風小帆を拽走せられ（まゝ）も江州の湊に到着し下官と俱（あ）江
 州府の前（あ）。此時府尹ハ廳上（あ）諸役人と（あ）公事を商議し
 居（あ）。江州府の知府姓ハ蔡（あ）。双名ハ德章と号（あ）。江州の當朝
 蔡大師蔡京（あ）が第九の子（あ）。江州の人皆蔡九知府と稱（あ）。そ人
 なり毒悪（あ）。貪欲無道（あ）。奢（あ）を（あ）。言語（あ）。原
 此江州ハ錢量洪大（あ）。人富物饒（あ）。繁昌（あ）の地（あ）。蔡大師
 己（あ）が子を此（あ）。知府（あ）。下官宋江を監押（あ）し

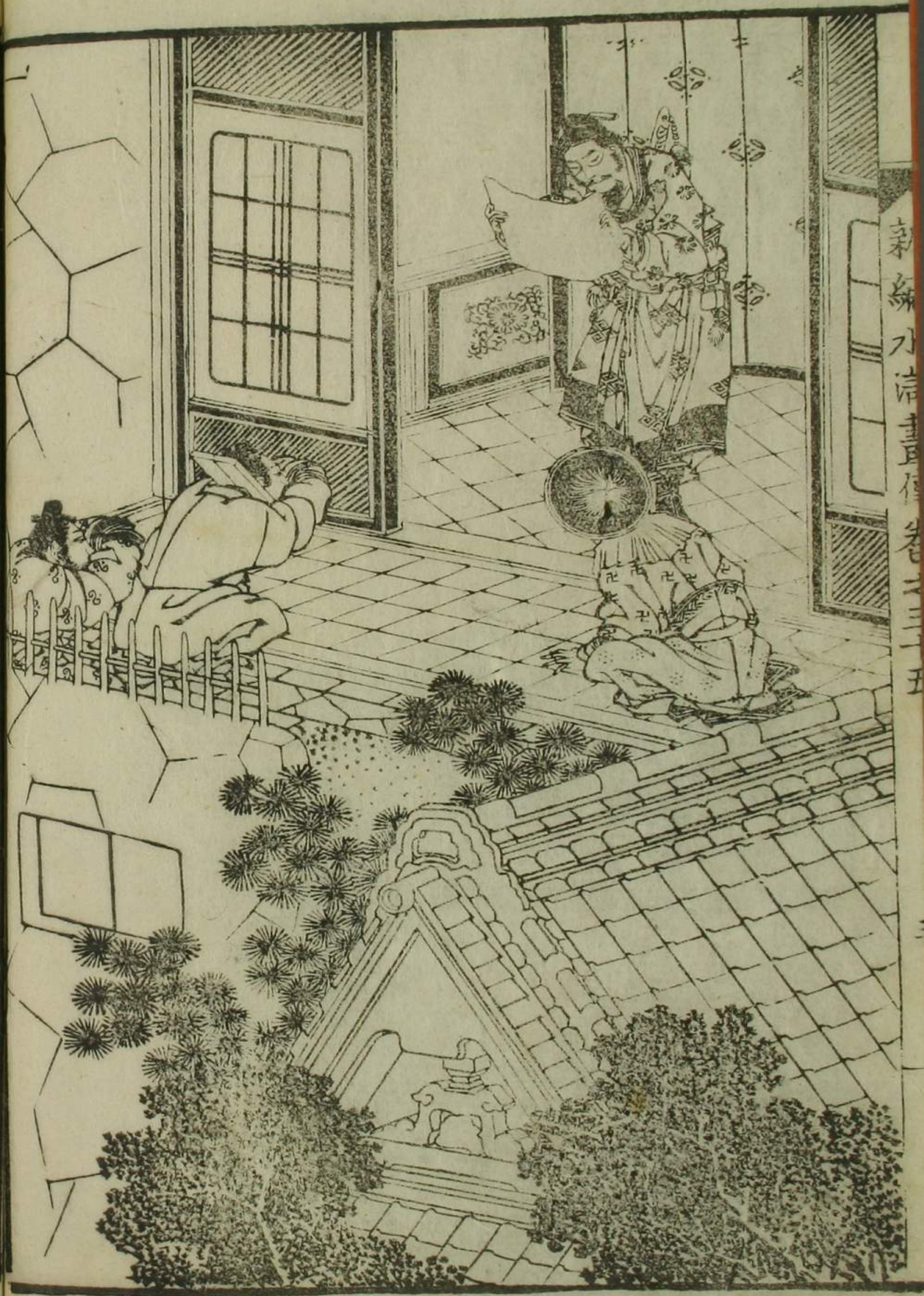
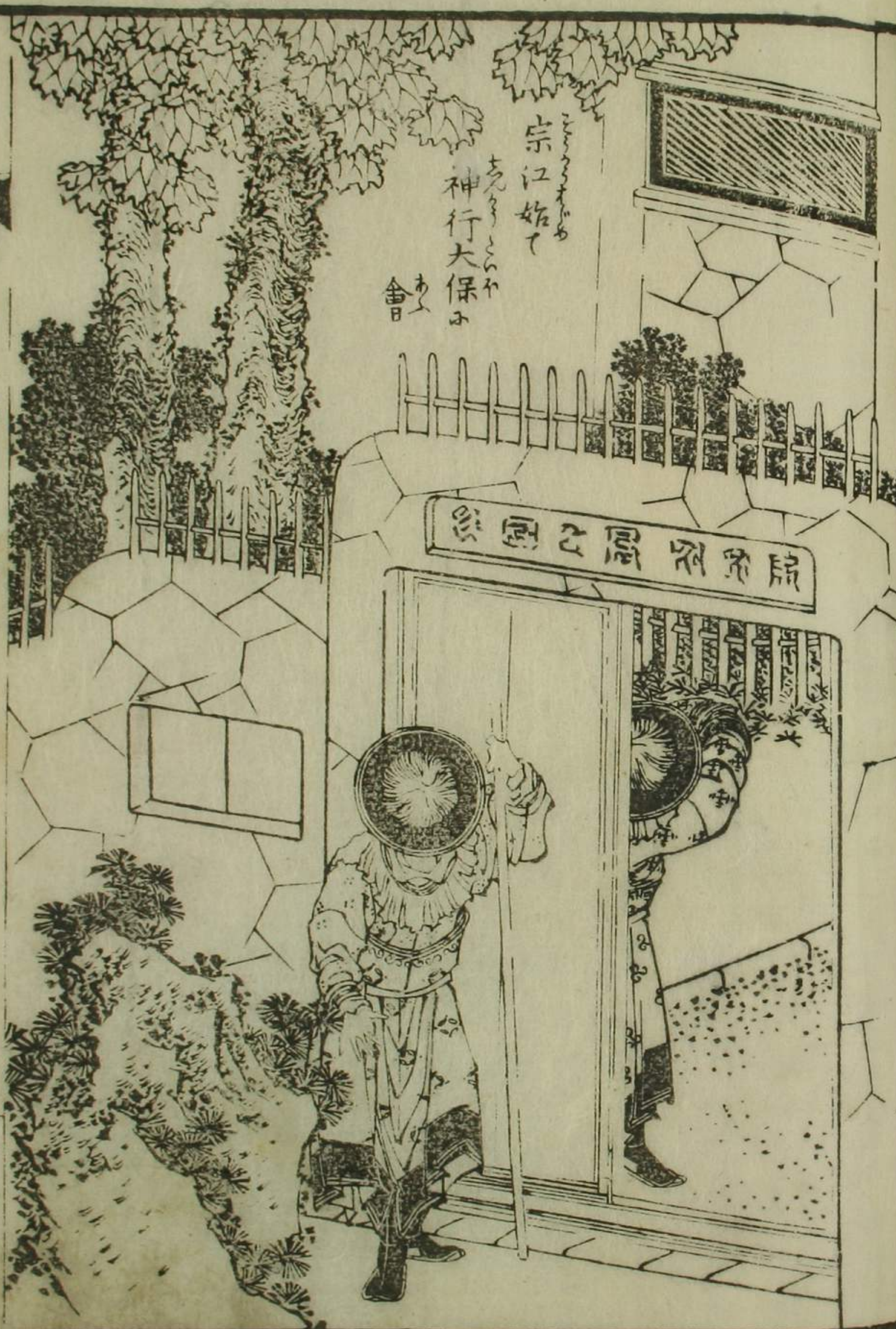
新編水滸画傳卷之三十五

町下より。役人ホお就く恭しく公文を呈に蔡九知府流人を
引出させ公文を讀了り。宋江は人物凡々を以て之を以て則問く云々
汝ハ人品も賤くはざる者あり。汝ハ罪を犯しぬ。且汝ハ頸物の上
本國よりの封あるはいつん。汝ハ下官ガ云道中あるは春雨打湿
これ。救日以前遂に廢りし。知府ガ云先王罪人を牢城營裡
流人を入。汝ハ早速當府の下官あるを差添。宋江を營裡へ送
置あり。下官命を承り。宋江と濟州府の下官とを引く。州裡を馳出
る。此邊ハ酒店あり。宋江三兩の銀を出し。江州の下官ホ与へ乃ち
酒を買せ飲し。這人の下官大これに悦ぬ。己ハ營裡ホおし。先
宋江を房間の内ホ留置。己ハ急ハ管營差探ガ方へ移て。勢と告
軍一宋江を憐とてと攏撥く。遂に江州ホ回り。叔濟州より

監押して。由人の下官包獄累を宋江に選し。再三謝して云々。某
某ら今次押司。後々當地ある。途中頗る恐怖。救くあり。又多く
金銀を以て想はざる。福を多し。偏ハ押司の賜あり。押司ハ猶恙なく
凌り。異日。汝ハの時を致し。と哭く。別を告。江州府ホ返簡を
乞濟州へ。汝ハ宋江ハ營裡ホ在。且差探十支の銀を送り。管營
中又二十支の銀を送り。其他營中の軍卒ホ一銀と与へ。宋江
宋江を愛せざる者一人もあらず。管營ハ賄賂を以て大悦び。頭
宋江を歴前ホ入。即ち頸枷を除く。云々。汝ハ遭濟州より
来り。新泰の流人よ。我朝の太祖武徳皇帝の聖旨。事例
凡新泰の流人始々營中ホ入者。汝ハ殺威棒と云く。一百棒を
策とあり。汝ハ此棒を請ふ。遂に左右ホ命ト打

めんとせし処に宋江謹で松へも其途中に於て風寒の病に犯れ
 今も快く願ふにこれを察し管營が云汝實に病をば殺賊
 棒を受がごとくん我まけ今日に此棒を免と他日病の瘥をまて
 らしむを祈るに汝ハ又縣吏をもちし者なれば當營の抄事
 房にせし抄事の職をあたしめんを則ち抄事房に送りせし
 宋江深くこれを謝し先をその房間に仰り包紙蓋をとり直に
 抄事房にむき歌し処に褚の流人其宋江が光景好をて尽く
 酒を携へたりと宋江を賀しこれ翌日宋江も酒食を具へて
 褚流人等を邀へ終日酒を酌で樂しり。こゝより宋江の時
 被差控牌頭を抄事房に邀く酒肴を進め又毎度禮物を送り
 されば俸半月をり此内不満營の人と交り結び一人も悦ばざる

ありたり。宋江一日差控を抄事房に邀へ酒を酌する処に差控
 宋江に語て云るハ我前日押司に約束し節級を送る常例錢を
 何故未だ送りぬや。若節級明日を向ふ及でを頼る光景惡
 くん其も又彼不見えん時云ふ詞あり只宜しく早く常例錢を
 送りて宋江が云此より少くも妨あり。彼若常例錢を求んと欲せば
 我却く一錢も与ふまじ。若差控長兄自家の入用あるに何時も
 我に問ふこれを求めぬ我樂んで足下を送る。節級が方へ半錢も
 送らば彼若明日我に問ふ此錢を求るとあるに我又是を答ふ詞を
 必だ我が為ふこれを憂ひぬ。差控が云押司定て彼が工を知りぬ
 あり。彼が人とあり大に利害殊更剛勇なるも仍く動不動人を
 打人を羞しむ若押司彼に常例錢を送らば彼必定某が



鄆城縣 押司及 時雨宋 公明成 汝和何

罪せんを欲せしむ。恐らく未だ死罪ハハハハ。節級怒り吼てい。汝
賊配軍。甚麼死罪ハハハ。と云。我汝を殺んハハハの蠅を殺ま
より易。宋江河と大笑。我常例錢を送ら。因。死罪に
當ら。梁山泊の軍師吳用と通同。者。罪ハ何等の刑ハ處せん。
節級此一言を。大驚。手中の短棒を撒く。急。向。ハ汝ハ今
何の言を云。宋江答。我ハ梁山泊の軍師吳用と通同。者
者。之。と云。汝。これ。節級甚。慌。宋江を扯住。云。汝の姓
名ハ。梁山泊の。汝何。の。所。在。これ。と。宋江。笑。
云。我ハ。山東鄆城縣の押司宋江と云。者。節級。これ。と。大
驚。急。拜。云。長兄ハ。乃。及時雨宋公明。云。ま。平。日。の。懐
此。ハ。人。の。耳。目。多。く。説。話。も。宜。く。同。城。下。ハ。純。平。日。の。懐

語。長兄。歩。移。宋江。云。某。公。の。命。ハ。先。哲。之
待。今。房。門。を。開。來。ん。と。頼。抄。事。房。ハ。回。彼。吳。用。が。書
簡。取。袖。中。小。收。め。又。若。干。の。碎。銀。を。懐。中。入。遂。節。級。と。俱。に。營
中。離。れ。城。下。來。り。一。軒。の。酒。店。入。坐。已。定。し。節。級。先。宋。江。小
問。云。長。兄。ハ。何。の。處。ハ。吳。用。究。小。遇。ハ。ぬ。宋。江。云。先。書。簡。と
兄。ハ。彼。吳。用。が。書。簡。中。与。へ。れ。節。級。披。讀。一。こ。と。城
袖。内。小。藏。則。ち。身。を。翻。宋。江。を。見。宋。江。忙。ハ。礼。を。還。
て。云。先。ハ。言。語。を。多。く。多。く。節。級。を。花。ハ。ハ。これ。を。救。
節。級。云。某。ハ。只。宋。氏。の。流。人。新。小。營。中。ハ。許。り。笑。ハ。多。
常。例。錢。を。求。ん。と。想。ハ。長。兄。小。遭。ハ。大。ハ。渴。想。の。懐。ハ。安。
せ。然。れ。向。未。だ。長。兄。を。織。り。多。く。威。風。を。冒。ハ。罪。を

え。伏し望む。これを怒り。宋江云。差捺先達。節級。此大名を称して。某告し。由某早く。其顔をおせんと欲し。これ未だ。節級の住宅も。知れ。想に。延引。今日。小れり。某。彼常例銭を送らざり。我。熟く。慮ふ。若これを。送らざらん。節級。必む。自ら。営中。出。く。を。求。め。あ。ふ。も。あ。わ。ん。時。宜。く。其。顔。を。お。し。聊。平。生。の。忠。を。慰。ん。と。欲。し。且。梁。山。泊。の。書。簡。も。撰。み。小。出。し。ぐ。く。良。小。以。て。故。意。常。例。銭。を。差。扣。久。く。送。り。し。其。毛。頭。各。惜。く。運。せ。し。ふ。あ。く。は。影。く。明。ら。く。推。察。し。此。節。級。は。江。州。西。院。の。押。牢。節。級。戴。宗。長。戴。宗。と。云。ふ。の。ゆ。え。吳。学。究。と。交。り。厚。き。知。己。之。宋。の。時。ハ。金。陵。一。路。の。節。級。を。家。長。と。称。し。湖。南。一。路。の。節。級。を。院。長。と。称。し。て。戴。宗。と。呼。ぶ。戴。院。長。と。云。ふ。此。戴。宗。原。来。奇。妙。の。道。術。を。知。り。若。云。ふ。一。日。の。内。ハ。五。百。里。の。路。を。行。若。四。ツ。の。甲。馬。を。用。ふ。付。一。日。の。内。ハ。八。百。里。を。行。此。ハ。依。て。神。行。太。保。戴。宗。と。云。慣。せ。り。形。面。潤。く。口。方。巾。眉。清。く。目。秀。て。威。風。凜。然。と。相。貌。儼。然。と。此。時。宋。江。戴。宗。互。に。来。情。去。意。を。語。り。共。に。悦。び。頻。く。酒。店。の。主。を。呼。び。酒。食。を。求。め。己。不。孟。を。執。て。相。勸。更。に。隔。意。を。く。説。話。不。及。び。宋。江。道。中。に。餘。多。の。豪。傑。不。出。遇。ふ。所。と。云。ふ。戴。宗。も。心。を。傾。け。膽。を。吐。く。吳。学。究。と。通。往。さ。る。と。告。真。心。腹。を。述。く。打。解。在。処。不。忽。ち。樓。下。に。開。ぐ。声。あり。一。人。の。家。僕。忙。しく。樓。上。に。跑。上。り。則。ち。戴。宗。に。向。ひ。云。ふ。今。我。店。を。開。く。人。あり。是。ハ。院。長。を。静。ま。し。能。く。願。く。ハ。樓。を。下。り。彼。人。を。疎。め。戴。宗。云。其。ハ。誰。れ。檀。小。人。家。を。開。く。も。家。僕。が。云。彼。人。ハ。常。に。院。長。に

行。隔。水。許。畫。傳。卷。之。三。十。五

後、我店不來りあり。彼鐵牛李大奇。今主を殺ね、錢を借んとく。
 坊店を鬧しめ、戴宗笑て云、我ハ只何等の人ならんと思ひし。小
 渠又來りて人家を惱まや。押司哲く此ハ在り待て。我少刻彼を引て
 赤へしと。遂に樓を下り。傾く一人の大漢子を引く。再び樓上へ登
 りぬ。宋江彼漢子ノ形をえり。面色ハ黒き熊のごとく。身肉ハ鐵牛ノ
 似たり。怒り頭髪ハ錢の刷小似て。睨む眼睛ハ日の光の正し。眉の毛ハ
 倒へ上り。腮鬚ハ双小分れ。声ハ鐘小似く。勢ハ虎の如し。誠希有
 勇士也。宋江先戴宗小巨細を向ふ。戴宗云、這人ハ某が部下の
 小牢子なり。姓ハ李。名ハ達と号に。原沂州沂水縣百丈村の産也。
 異名を黒旋風李達と申。又李鐵牛とも云。慣せり。彼前年人を打
 殺して。故口を走出。後ハ赦免を蒙りし。終に流落て當地に

逗留。彼酒の癖あり。故に皆を怖る。彼又能二ツの斧を使ふ。
 李達も亦宋江を尋て戴宗小問する。彼人ハ誰ぞと云。戴宗云、
 汝も今日の引合せを尋く。此押司は見よ。汝常小此押司と訪んと欲す。
 毎度吾徳を稱し。今今日を拜せ。李達云、我が訪んと欲す。
 英雄ハ普天の下に於て。独山東の及時雨。黒宋江のこ。此者何ぞ。黒宋
 江云、んや。戴宗大に責て云、汝のんぞ。形上を犯れ。の言語を云や。且
 しく黒の字を忌む。如よ。直に黒宋江と稱せ。甚だしく非禮也。
 此長兄。則ち及時雨。宋公明也。汝猶下拜をなさば。何きの時を侍
 んと。李達云、云り。實に宋公明あり。我肯くおぼせられた。恐ら
 くも詐り。と云。んづ。我豈容易拜を称んや。宋江云、某實に山東
 の黒宋江也。んぞ足下の拜を勞せ。李達是を皮忽ち覺す。

行遍く許す。直事云云。

鼓大伏躍て云長兄果しく宋押司あるべなど疾某お知せく。
 悦ぶしめあつりぞりしごとく。忙しく身を翻しく拜をなす。戴宗又李逵小
 宋江急小礼を還し。豪傑先拜を休み坐し。戴宗又李逵小
 對し。云々。賢弟軍一く一処小酒を酌んで談話せよ。李逵が云今日
 初め義士は遇心上大小趣きあり。寧大碗あく酌べし。遂に戴
 宗が次子坐し。宋江が云。豪傑ハ何ゆゑ先子樓下は在る。閑ぎ
 ぬひしを。李逵が云。某前日一錠の大銀を一箇の入り預け先
 十兩の小銀を借し使ひ。今日此銀を贖回し。其餘りを使
 んと欲し。乃ち這店の主は彼原銀十兩を借んとし。これ。這主我が
 還す。と。怖る。敢て借さば。この原銀を贖り
 店を微塵に打碎んと欲せし。院長哥。長兄と。我を此処に

拖上。宋江が云。足下唯十兩の銀を用ん。何のゆゑ。きこふ。あん
 と。乃ち懷中より十兩の銀を取出し。李逵小与へ。云。足下軍と
 此銀を携へ。那大銀を贖復し。使用し。備へ。戴宗ハこれを
 心の中へ却り悦ば。李逵銀をゆき。云々。あ人の長
 兄猶此処に在る待。某少刻銀を贖て再び来んと。遂に樓を
 下り。馳出たり。戴宗が云。長兄今李逵小銀を借し。大不可
 なり。宋江が云。故ハいんぞ。戴宗が云。李逵ハ原直実の者。あれは唯
 酒を貪り賭を好の病あり。渠馬ぞ一錠の大銀あり。今彼十
 兩の銀を還し。大銀を贖ると云。ハ。乃是偽。必定賭博坊に
 往。博奕を。若贏ハ彼十兩の銀を長兄に還せ。若れども
 輸。一錢も還せ。万一も贏。然ら。某却る。何れ

面目うあゝん。宋江咲て云。院長何ぞ私のどきき隔心のとを云わぬや
豪傑やちま酒と賭夾の癖あり安し。僅十兩の銀何ぞ英雄は
惜むべき。彼若輸かバ。又再び借せよ。必むこれに憂あり。某彼が
氣質を伺ひし。本忠直の豪傑なり。是れ級小我を愛む。我が
所持の銀のとん限ハ。豪傑のとん聊借む。戴宗云。李逵ハ
本武藝力量ハ。渚ハ勝まされ。只心鹿く膽大く。若酒ハ酔し。時
妄り。牢中の罪人を鞭打。内外を鬧し。某も幾回。吾連累を
被りぬ。殊更彼途中。不平のとを。時ハ忽ち吾強き者ぞ
打。吾弱き者を助け。動不動人の禍を己が身に干。猶後
悔を知らざる。愚直者。宋江云。彼肯。此のどく弱を扶け。強を
打。上ハ傲。下ハ忍。び。此豪傑我益。これを感。と。浅く。は。と。

又盞を執。相勸め。商人再び飲。秘を催。此時戴宗云。城
外に出。江中の風景。をも。見せし。進せん。あ。押司ハ。歩を移
し。あ。宋江云。某素より江州の風景を遊覧せん。と。欲は
遂。酒店を出。江迎。遊。行。は。

○黒旋風浪裡白跳と闘ふ

黒旋風李鉄牛十兩の銀をば。心中。道。宋押司ハ。原我と交り。も
厚。唯一座の初見の。此銀を借。あ。一。志の懇切。を
と。美を重。財を軽。ん。天下の英雄。と。支。侍。へ。の。なり。に。
攀。て。手。実。を。知。り。ぬ。世界。普。く。名。を。定。て。も。敬。ま。る。と。宜。し。今。偶。此。外。ハ
至。り。あ。ひ。一。我。幸。ひ。酒。宴。を。設。て。宋。押。司。を。款。待。せ。し。頃。日。ハ。連。綿。
博。奕。ハ。輸。只。半。銭。の。貯。も。あ。り。三。盃。を。勸。め。一。點。の。情。を。表。す。



李達 りだつ
 大 おほ
 市街 いちがい
 騷 さわ
 か



方便なし。ちうと先此十兩の銀を下稍とて博奕をなす。宜しく
数貫文の錢を贏取す。宋押司を心の俵に款待べしと忽ち花が
どくふ。城外小跑出直小張しと云者の坊頭を以て博奕店より
則十兩の銀を投半し云々ハ我ハ十兩の稠馬を与へよ小張しが云李
公ハ常小勝を急ぎめ依り却て負速おめ。宜しく排を微や
本を堅くし。死を避活を俵く贏をなめとて十兩の稠馬を与へ
処ハ李達原来短氣の者といひ。況や今日ハ別し心忙しく。十兩の
稠馬を二ツに分ち前後ハ排只一打小これを打輸る子くもむを空
しこれハ小張乙并小緒の淹漢也。一齊ハ咲く云々ハ李公ハ今日
却る勝負を常より急ぎめハらん。尽救の稠馬を二ツハ排ハ原
老賭のかさる。先暫く酒を酌で歌をぬ。我が輩ハ尚自ら勝

負を新め慰んと。己ハ李達を傍に推問し。李達ハ張乙ハ對して
云々ハ我ガ今輸る銀ハ人の銀や。我銀ハわが所。小張乙ガ云選莫
己ハ輸る上ハ今更何をや何せん。李達ガ云汝宜しく察し。其
銀を先我ハ借せ。我明日母銀ハ利を如へ償ふ。小張乙ガ云博奕の
上ハ於る親子昆弟をも顧むし。何を敵と。互ハ贏を争ひ一錢の
借貸をあると。縁をを知りぬ。然るを汝此銀を借んと
云ハ大丈夫の心ハ背たり。李達此言をばく大ハ怒り。忽ち衣の袖を
巻起。雷霆の如く吼く云々。汝ハ銀を還はせ。小張乙ガ
云李公常ハ若干の銀を輸る。曾て悔ありと云々。今日ハ何
ゆゑ非道を云めぬや。李達こをばく。双眼を睜開き。遂ハ枝十
兩の銀を奪取す。別ハ又十四五兩の銀を掠め。尚声を一助し。

吼と云々。我常一銭も賒ざりしうども。今日ハ御故と云々。
且此銀を借る。故必我を恠むと云々。己ハ跑せんとせしに。
小張乙急ニ走り倚り取れし銀を奪ひ復んとし。李達大ニ
狂ひ。先小張乙を地上ニ打倒し。猶四面八方ニ跑る諸の徒者
を
尽く踢倒し。自ら門を開て跑出さる。彼一夥の人同く門外
を走り
出く。云々。李公のんぞ我輩が銀までも奪取せしむ。宣し
還し。之を。選後ハ随ひ。近く前人と云々。者ハ一人ハあり。李
李達これを耳にも入らざり。直ニ他処ハ後ハ一人の漢子
李達が肩を振へり。汝何ぞ他人の錢財と奪ひぬ。李達
大に怒り。忙ハ首を回し。乃ち戴宗と宋江と云々。
ありし。李達忽ち面を紅く。大ハ慚く云々。友人の長兄

必我を責りぬ。勿れ我常中これらの非道と云々。
今日ハ我ら宋押司の賜する十兩の銀を輸し。再び償ふ
銀も亦殊更押司を邀へ。盃を進め。能く己を召し。
と云々。只顧我に向て求ゆ。今日明ハ輸し。銀ハ能く
奪ひ回すの理あり。速ニ銀を彼輩に還し。李達云
左も右も押司の命ハ背ト。即ち懷中より銀を出し。宋江に
進與。宋江領之。小張乙を呼び。銀を還し。宋江云
某らハ本銀十五兩許を。李公の輸め。銀ハ再び李公へ
還し。宋江云。汝ハ勝し。銀何ぞ再び回さん。宜しく
返す。小張乙ハ心中。李達が仇を挟まん。と云々。

曾さかの十兩の銀をみせしむ。再三辞退し及びたり。宋江又問て云く
 猶李逵は打れし者ぞや。小張は答て云。李公は打倒され苦しむ者
 救箇人あり。宋江が云。己はかくあつた。此十兩の銀は茶錢とて打れ
 者。サレとあつた。汝此銀をみせしむ。故てとて。再三強きとへし。小張
 乙速く銀を收り。頓首お祈し。回りて宋江又戴宗李逵に對
 して云。我輩三人同く酒店にゆく。三盃を酌ば可あらん。戴宗が云
 幸ひ前面の江邊は琵琶亭と云酒館あり。是は以前唐朝の白樂
 天が古迹なり。我輩彼亭に上り。三盃を酌ば。我輩風景を遊
 覧せし方よく。贊同を散ぜし。宋江が云。若果しく琵琶亭に
 ゆく酒を酌ば。白樂天が故事を思ひ出しく。格別お祈し。とて
 三人齊しく彼亭に望み。馳來り。頓き亭に上り。登りて。此處を
 一辺は海陽江に倚。一辺は酒店の主が房屋あり。琵琶亭の上は
 十四五の客座。殊々美麗。戴宗一ツの客座に入。宋公明。上
 座に就し。己は主席にす。李逵は次にお坐し。三人座に己は定まり
 るれば。戴宗則酒店の酒保に命し。酒肴を具へし。飲酌を始めり。
 宋江戴宗李逵と俱し。教盃を傾け。嚮中酒肆に酒を用ひ
 上され。宋江は魚辣湯を用ひ。酔を醒さんと。戴宗は問は
 此處に魚を食む。惜らざる。新鮮あり。此地は鮮魚拂底あり。
 戴宗笑て。長兄は何ぞ。魚船は江中。魚船は江州。原魚米比
 地。あれは他。稀あり。鮮魚あり。あつても何魚も。此江中。あつて云し
 たり。宋江が云。我新魚あり。ん中。些の魚辣湯をゆき。聊醒を。索て
 又酒を酌んと欲す。戴宗自他とも。一旦酔を解し。可あらん。則ち

曾さかの十兩の銀をみせしむ。再三辞退し及びたり。宋江又問て云く
 猶李逵は打れし者ぞや。小張は答て云。李公は打倒され苦しむ者
 救箇人あり。宋江が云。己はかくあつた。此十兩の銀は茶錢とて打れ
 者。サレとあつた。汝此銀をみせしむ。故てとて。再三強きとへし。小張
 乙速く銀を收り。頓首お祈し。回りて宋江又戴宗李逵に對
 して云。我輩三人同く酒店にゆく。三盃を酌ば可あらん。戴宗が云
 幸ひ前面の江邊は琵琶亭と云酒館あり。是は以前唐朝の白樂
 天が古迹なり。我輩彼亭に上り。三盃を酌ば。我輩風景を遊
 覧せし方よく。贊同を散ぜし。宋江が云。若果しく琵琶亭に
 ゆく酒を酌ば。白樂天が故事を思ひ出しく。格別お祈し。とて
 三人齊しく彼亭に望み。馳來り。頓き亭に上り。登りて。此處を
 一辺は海陽江に倚。一辺は酒店の主が房屋あり。琵琶亭の上は
 十四五の客座。殊々美麗。戴宗一ツの客座に入。宋公明。上
 座に就し。己は主席にす。李逵は次にお坐し。三人座に己は定まり
 るれば。戴宗則酒店の酒保に命し。酒肴を具へし。飲酌を始めり。
 宋江戴宗李逵と俱し。教盃を傾け。嚮中酒肆に酒を用ひ
 上され。宋江は魚辣湯を用ひ。酔を醒さんと。戴宗は問は
 此處に魚を食む。惜らざる。新鮮あり。此地は鮮魚拂底あり。
 戴宗笑て。長兄は何ぞ。魚船は江中。魚船は江州。原魚米比
 地。あれは他。稀あり。鮮魚あり。あつても何魚も。此江中。あつて云し
 たり。宋江が云。我新魚あり。ん中。些の魚辣湯をゆき。聊醒を。索て
 又酒を酌んと欲す。戴宗自他とも。一旦酔を解し。可あらん。則ち

酒保を呼んで紅白魚湯（紅白魚湯）を三分を如く割り煮し酒保諾ひ必刻し。拿來一碗づつを三人の前（前）に具（具）ふ。宋江速（速）は是を用人とする。此は又魚鮮（魚鮮）なり。醜（醜）の如く思われ。宋江戴宗との小等（小等）一くもささりてこれを食せし。李逵ハ悉く食し畢（畢）く。兩長兄ハ何也多好（何也多好）で造へ一用ひあを（一用ひあを）からや。宋江が云何の由（由）あや。魚鮮新あり。味美あり。これハ一魚鮮なり。李逵是をばく。忽ち酒樓の小廝を呼んで云此亭（此亭）あを。鮮魚を以て客の錢を貪（貪）ふ。速（速）ハ鮮魚を以て改（改）く制（制）し。才（才）あらんや。然（然）るにんバ我忽ち此酒樓を粉（粉）の如く打碎（打碎）くんと。大（大）怒り罵り。此軒（軒）ハ駭（駭）き。酒保多く来り。貴客怒りを止め。此処原来鮮魚多し。之と。唯今ハ猶船中（猶船中）より。つあごを賣（賣）は。我亭の魚も皆昨日の魚あり。夏（夏）なり。今日へ用ひごとくせひ。盛水を以て。洒（洒）ぎ洗（洗）ひ。

或ハ冷水を屢替（屢替）く浸（浸）し。暑腐（暑腐）を防（防）ぎ。魚（魚）あれ。御（御）の魚のごとく。戴宗が云汝（汝）ら。云所（所）のごとく。理（理）あり。今（今）の鮮魚と求（求）ぬらん。兩保（兩保）が。江中（江中）ハ繫（繫）と。り。漁船（漁船）杉家の主（主）が来（来）るを待（待）は。猪船（猪船）一同（一同）價（價）を估（估）し。俱（俱）小（小）を賣（賣）ふ。此（此）也。多（多）不（不）猶（猶）の。鮮魚（鮮魚）を求（求）め。商賣（商賣）始（始）り。鮮魚（鮮魚）を戴宗が残（残）し。二碗（二碗）を乞（乞）取（取）く。皆食（皆食）ひ。自ら一盃（一盃）を篩（篩）で。飲（飲）て。今（今）某（某）自ら馳（馳）く。鮮魚（鮮魚）兩尾（兩尾）を求（求）め。兩長兄（兩長兄）を許（許）し。と云。宋江ハ笑（笑）ひを忍（忍）へ。戴宗（戴宗）は。李逵（李逵）を。何（何）ぞ。李逵（李逵）が云長兄（長兄）の言（言）差（差）へ。我（我）自ら漁船（漁船）に。對（對）せ。

得えふことあり。酒保さけのり小厮こしやく何なにをを做しはんんととやや躍た起たりり馳はりりててゆゆるる。由よし多おほ戴たい宗そうのの制せいはは汝なんぢのの又また争まじ論ろんをを起おこさんんをを必かな然ぜんとと我われ等ら汝なんぢ三さん人にんハハ此こゝ亭ていのの客きやくハハ何なに爲なはは汝なんぢ自みづからら往ゆんんやや宜よろししくく彼か酒さけ保のりをを央あたりり預あづかららぬぬ。漁いし人にんハハ賣うりりやや賣うりりとと問とふふ。若し肯かんん賣うりりとと求もとめめ。果たししてて賣うりりんんハハ魚いし牙がのの主しゅがが来きるるをを待まちてて求もとめめとと未いまだだ晚おそききことと申まをすす。李り達だつがが云いふふ我われ自みづからら馳はりりてて鮮せん魚ぎよをを求もとめめんん。漁いし人にんハハ何なにをを賣うりりまますすとと若し彼か小こ厮しやくをを求もとめめばば必かな定てい魚ぎよをを求もとめめてて一いつつつとと遂ついにに亭ていをを出ででで江えにに馳はりりてて戴たい宗そうをを求もとめめんん。乃すなはちち宋そう江えにに對たいししてて云いふふ。某ま不ふ慮りしし彼かをを誘い引ひしし。後のち悔くわい已いままをを悔くわいむむ願ねがふふ。押おし司し彼かがが卑ひ礼れいをを免まりりしし。宋そう江えがが云いふふ彼かがが本ほん性じやう天然てんぜんががののととくくんんハハ我われ却かへりり彼かがが直ちやく実じつななをを敬うやまへへ。院いん長ちやう必かなずず隔まりり心こゝろ比ひ言ことををいいふふああかかととてて西さい人にん樂がくでで琵琶びわ亭ていのの上うへににありり。閑かん淡たん博はく濃のうにに一いつ與よをを催もよほしし。叔しやく李り達だつハハ遂ついにに江えにに馳はりりてて此こゝをを過かりり。八はち九く十じゆのの漁いし船せんをを連つねねてて揚やう柳りゆう樹じゆのの下したにに櫂かいをを櫂かいぎぎ。若し干かんのの漁いし人にん等ら或あるはは船せん傍かたわらをを枕まくらととししてて睡ねむむ。或あるハハ船せんのの頭あたまにに坐まりり。或あるハハ水みづ中なかにに浮うかかんでで沐浴ゆよくももしててありり。此こゝ時とき五ご月げつのの半なかにに紅こう日にちももやや西さい山さんにに沈しづんでで。されれどもも魚いし牙がのの主しゅ未いまだだ来きるる。船せんをを開ひらくく。買かひ者ものハハ已いまま湊みなとににありり。尚なほ商しやう賣ばいをを始はじめめ。李り達だつ直ちやくちち船せんのの辺へにに馳はりり。嗚なりり云いふふハハ汝なんぢらら此こゝ船せんにに鮮せん魚ぎよありり。大おほききききとと我われハハ賣うりりとと求もとめめ。漁いし人にんハハ答こたへへてて云いふふ我われガガ輩たがひのの魚いし牙が主しゅありり。船せんをを開ひらくく。能よくく。汝なんぢ岸きしのの上うへににありり。若し干かんのの魚いし賣ばい人にん都みやこにに魚いし牙が主しゅがが待まち居ゐるる。李り達だつガガ云いふふ何なにをを一いつ向むか魚いし牙が主しゅをを待まちんん。先まづ兩りやう尾びのの鮮せん魚ぎよをを我われハハ售うりり。漁いし人にんハハ又また答こたへへてて云いふふ我われガガ漁いし船せんのの舊ふる例れいににししてて船せんをを開ひらくく。前まへにに預あづかららぬぬ。先まづ酒さけをを供たへへ。船せん神かみをを祭まつるることと。

一與ひとをを催もよほしし。叔しやく李り達だつハハ遂ついにに江えにに馳はりりてて此こゝをを過かりり。八はち九く十じゆのの漁いし船せんをを連つねねてて揚やう柳りゆう樹じゆのの下したにに櫂かいをを櫂かいぎぎ。若し干かんのの漁いし人にん等ら或あるはは船せん傍かたわらをを枕まくらととししてて睡ねむむ。或あるハハ船せんのの頭あたまにに坐まりり。或あるハハ水みづ中なかにに浮うかかんでで沐浴ゆよくももしててありり。此こゝ時とき五ご月げつのの半なかにに紅こう日にちももやや西さい山さんにに沈しづんでで。されれどもも魚いし牙がのの主しゅ未いまだだ来きるる。船せんをを開ひらくく。買かひ者ものハハ已いまま湊みなとににありり。尚なほ商しやう賣ばいをを始はじめめ。李り達だつ直ちやくちち船せんのの辺へにに馳はりり。嗚なりり云いふふハハ汝なんぢらら此こゝ船せんにに鮮せん魚ぎよありり。大おほききききとと我われハハ賣うりりとと求もとめめ。漁いし人にんハハ答こたへへてて云いふふ我われガガ輩たがひのの魚いし牙が主しゅありり。船せんをを開ひらくく。能よくく。汝なんぢ岸きしのの上うへににありり。若し干かんのの魚いし賣ばい人にん都みやこにに魚いし牙が主しゅがが待まち居ゐるる。李り達だつガガ云いふふ何なにをを一いつ向むか魚いし牙が主しゅをを待まちんん。先まづ兩りやう尾びのの鮮せん魚ぎよをを我われハハ售うりり。漁いし人にんハハ又また答こたへへてて云いふふ我われガガ漁いし船せんのの舊ふる例れいににししてて船せんをを開ひらくく。前まへにに預あづかららぬぬ。先まづ酒さけをを供たへへ。船せん神かみをを祭まつるることと。

あり。我が輩只魚牙主が来るを待て、尚未だ船神小酒をい奠らざるに
 つんど安り小船を開き魚を取出さんや。李逵はをばく大に怒り、忽ち
 一艘の漁船に跳乗り、漁人小李逵が勢ひ小恐れあつて、開らんと
 せり。若ありり。李逵擅に船中を捜し、一尾の魚もあらず。りり。大
 江の内ゆく魚を取漁船中を都く船の尾ホツの大孔を開き、江水を
 出入させ、活魚を養ふゆゑ。今李逵水あき船の内をりりを捜し、りり
 依り。曾て一つの魚もあらず。李逵又他の船に乗り、りり。捜し
 りり。若干の漁人小都り岸の上小跳上り、各竹篙を手に、李逵を
 打んとせし。李逵大に怒り、焦燥を躍り、向ひ漁人小が乱小打りける
 竹篙を五六本奪ひ取、忽ち扭り、棄つれば、漁人小これをえり。大に
 驚き、楫船繩を解き、都り江中へ撑開き、りり。李逵益々猛り

狂ひ、右のりり折篙を持ち、彼魚商人小を四面八方小追散り、りり
 又小猛威を振ふ。処小小路の上より一人の漢子進み、楮人是城
 見え、魚牙の主あり。あひぬと悦び、衆皆向ひ進んで云々。何ゆゑ
 長兄ハ晩く、りり。一人の大漢子魚を奪ひ取んと、りり。諸此
 魚船甚悉く追散り、ぬ彼魚牙主が云々。無礼をあら、大漢子ハつりり
 在り。楮人李逵を指さし、云彼を見、りり。尚岸辺ふらり、りり。只顧入りり
 騒動も、彼魚牙主これを見、りり。忙しく、馳来り、大に罵り、云々。ハ汝賊漢
 豹の胃虎の肝を吃し、大膽者なりと云。りり。焉ぞよく、我が商賣を
 妨んや。早く、りり。走去り、禍を免れよ。李逵此漢子を、りり。身の丈を
 六尺五六寸、りり。や、りり。年の頃ハ三十二三歳と、りり。面白く、鬚黒く、頭
 巾ハ萬字巾を戴き、身巾ハ白布衫を着、りり。人物風雅なり。威風

端嚴なり。李逵敢く詞をもいひ返さば。竹篙を輪へて彼魚牙主に
 打ちかゝる。那漢子早くも進み入る。李逵は中の竹篙を奪ひ取り
 処へ李逵急し。彼漢子が頭を揪へし。彼漢子已に三度まで李逵を
 踢んとし。れども李逵は原来水牛小等し。大力なれども。彼
 漢子を推し。逼り火し。拵れせ。恰も鏡鎚のごとく。拳杖拳く
 肩骨を一向續く。ぢられ。彼魚牙は只徒ら眼を睜開く計に斯る
 処へ背後より一箇の人來り。李逵が目を握り。大に責む。云々。汝何ぞ
 か。酒小狂し。人を惱まぬ。李逵首を回し。此人ホを。に乃ち
 宋江戴宗あり。一。客を。と。松ゆる。処へ。彼漢子。杜しく身を脱ぎ
 逃が。と。不。死。去。り。戴宗深く李逵を恨みて。云々。我。預。め
 汝。此。の。ど。れ。を。意。や。んと。料。知。り。再。三。無。用。と。制。し。れ。ども。汝。我。が

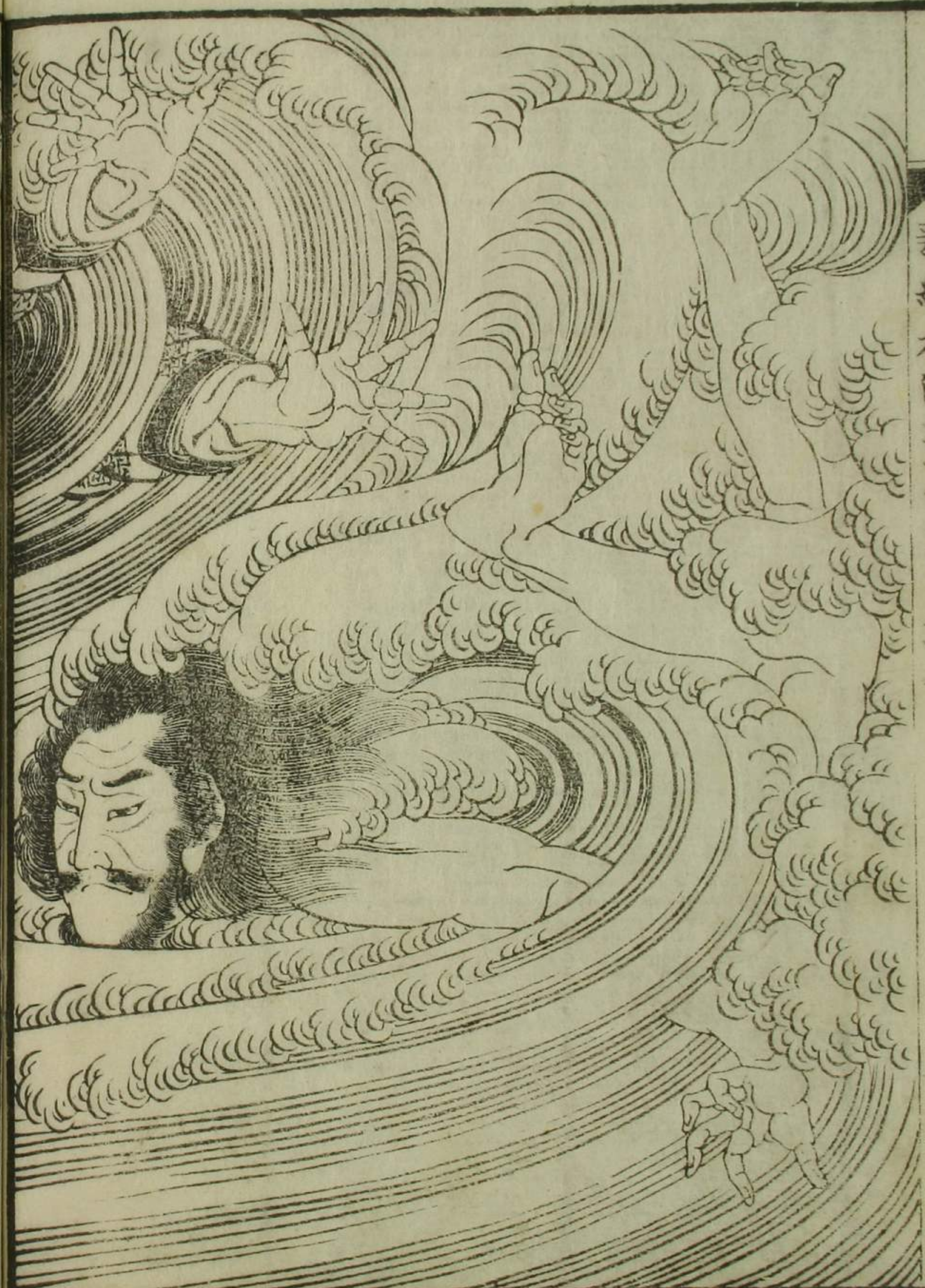
言を容す。江迎ふ來り。果し。諸人を惱し。め。よ。若。一。拳。小
 人を打殺し。必。定。命。を。償。ふ。べし。汝。ま。ぐ。く。以。來。を。謹。慎
 李逵答く。云。長。兄。か。くの。ど。と。云。あ。の。連。累。を。被。ん。と。を。怕。れ。く
 ぬん。我。自。ら。人。を。殺。し。わ。バ。我。独。り。命。を。償。ふ。の。何。ぞ。必。し。も
 人。千。ら。ん。や。宋江が。云。賢。弟。只。顧。争。論。を。な。し。平。生。の。美。を。壞。し
 であれ。先。再。び。琵琶。亭。小。至。り。酒。を。酌。で。怒。氣。を。散。せ。し。め。よ。此。時
 李逵ハ宋江戴宗。隨。て。十。步。を。り。往。し。処。へ。背。後。へ。一。人。の
 漢子來り。大に。罵。り。罵。り。云。賊。男。子。汝。の。力。量。あ。く。バ。今
 ま。雌。雄。を。決。せ。よ。李逵急し。首。を。回。し。と。を。と。れ。バ。則。ち。魚。牙。主
 衣。を。脱。去。赤。條。く。み。あり。一。身。の。肉。も。白。き。を。露。し。独。自。ら。一。艘。の
 小。船。に。上。り。李逵。が。後。の。岸。辺。に。撐。り。猶。一。向。惡。口。せ。り。李。逵

甚ど怒り忽ち奔雷のごとく吼く身を回し或る彼漢子
 られを以て船を岸に撐着竹篙を燃え頻り小李逵を罵り
 小李逵も又罵て云汝果しく勝負を決せんと思ふ早く岸に
 上るも脚を交へよ彼漢子耳も突入む傾く竹篙を拳く
 李逵が腿の上を糊破りし。李逵憤然とて大に怒り身を
 躍せし船の上へ跳来し或る彼漢子の原李逵を賺しし船に
 乗しんと圖りし。今李逵が計小陥る船小乗しし。彼
 大に悦び傾く篙を岸に着し船を撐開きし。船は
 箭のごとく江心を望んでゆき。李逵も頗る水性を識しし。水
 中の働ハ陸路の働とちなり。自ら心大に駭き少く猶も
 或る處に被漢子篙を燃え頻り云々の汝賊漢早く勝負を決せよ

傾く李逵を捉く又罵く云々。我今汝と拳を交へんと
 休く先汝が飽まで水を飲しむ。両足を拳く批を力に任
 せし踏し。彼小船底ハ天に朝く倒し翻り。二人の英雄齊しく水
 中へ落入ぬ。宋江戴宗ハ忙しく岸辺に追ひて彼船を以て底を
 上りし。倒し翻りし。宋江戴宗岸の上へ在り。這へて身を
 擣く憂へ恨しが更益もあがりし。江岸の上へや三五百人集り
 尽く柳樹の下へ立並んで見物し。各評残し。云々。彼大漢子
 此度ハ計小落し。後一命を脱れし。満腹の水を飲べし
 嗚呼笑止やと衆皆も汗をぞ握りし。宋江頰を伸し。江面を
 望み見よ。彼魚牙王李逵を燃え頻り。一遭ハ扯上げ。又一遭ハ扯下げ
 二人の豪傑江中の清波碧浪の内へ在り。浮つ沈つ組合今もや息



張順水中
李逵之怒



絶あんと思われたり。一人ハ全身雪より白く一人ハ渾身墨より黒く
又人毎ハ奇異の両雄なりと譽ぬ者ハありたり。宋江戴宗ハ李逵ガ
水中ハ在り苦しめんと醉をそそ心を驚しめり。彼漢子又李逵を
引上てハ息を續せ又引入てハ水を飲しめ海を渡り救十度あり。宋
江餘りハ忍び兼則戴宗と商議し一箇の人を央り救ぐ。宋江
欲し頓く戴宗を馳り先緒人ハかの魚牙卦ガ姓名を問ひ処ハ緒人
答ていひ彼白面の漢子ハ當地ハ於り魚店の行家張順と云者
宋江忽然と想ひ出し云彼者必定浪裡白跳と云ん諸人が
云則そ入て宋江を告戴宗ハ對し云んハ彼兄張横と云者
這回張順ハ書簡を送んと欲し則そ書を某ハ寄ぬ某ハつて
彼を訪ふ暇あり。書簡尚宮中ハ置り戴宗ガ云已にかく

あつて我宜しく張順を岸辺ハ必多び。頃て江中を望み
大音ハゆり。張豪傑先手を動しあつて汝の令兄より
書簡を寄らる。今汝ハ此書簡を届く。大漢子
免し速く岸上り。張順遙ハ此言を聞き何人かと頭を
擡り岸の上を望み。戴宗独緒人ハ技拙く在り。張順原來
戴宗ガ面を織し。李逵を放ち棄岸の上へお上り。戴宗に
向ひ恭しく礼をなす。云んハ願くハ院長某ガ不礼を免し。我
戴宗ガ云足下我ガ難儀を願く宜しく彼者を饒し。然らば我
一箇の人を汝ハ見せしめ悦ませ。張順已ハ領兼し。再ハ水
中ハ跳入ぬ。此時李逵ハ浮つ沈つ苦まら。張順頓く李逵を把り
扶け両の足も水瀾踏あつても平地を歩が。江水を

あつばや。戴宗が云乃ち及時雨宋公明之張順ををさ忽ち地上は
お伏しく云々。某のつく押司の大名をさそ久し今日つあ吉日
めをを押司を親きや。世しの人皆押司の清徳を称し云々。ハ
押司ハ能人の危を扶け人の困を救ひあやあり。城小こもを
敬つもんバるる。宋江が云某がてを何ぞいふ足ん前日我當
地ある時揚陽嶺の下る混江龍李俊が家小救日逗留
そ後又潯陽江の上ゆく足下の兄張横小遇直小務弘が家小救日
滞留せし令兄張横足下小届けゆせを一封の書簡を我に
寄ぬ然も我此西ふゆ。日あつ。殊更足下の住西をも知
戴院長李逵あ人小誘れ此琵琶亭小あり快く酒を酌て江中此

風景を遊覽し某又鮮魚を求め猶三盃を酌んと欲する。処小
李逵自ら馳り鮮魚を求め。江辺小往る。少刻して江邊
頭り小開ぬ。酒保をを。看せ。李逵争論を
做出。告し。これを勸解んと忙しく江辺小馳出。料
ら足下小相まぬ。今日コ小三人の豪傑小會を。則ち天此
賜る幸ひ先宜しく坐を寛げ三盃を傾け。再三酒保に
命ト酒肴を新設し。頃酒宴を始る。張順又宋江に對
して云々。長兄。鮮魚を用んと。某自ら教尾の鮮魚を
取。宋江を。悦び謝。李逵も大悦。則
かくの。我張順と共往。魚を求む。戴宗これを責。く
い。汝水を飲。満腹。何。足。張順打笑。李逵

携へる人己小琵琶亭を下り江辺あり張順者の魚船をきて一声
鳴りし彼江面の漁船尽く皆岸の辺に漕着ぬ張順向く云く
汝ら何事の船大ひある鯉魚ありや時小此漁船より答く云大なる
鯉魚ハ某が船小あり。又かの漁船より答て云大ひある鯉魚ハ某が船
ありとて暫時のち小十四五尾の鯉魚を携へ出ぬ張順をこんと
その内四尾を擇取再び琵琶亭小舟に送らば宋江大に悦び
こを謝し乃ち又座を改めらば李達ハ張順よりも年長ありれば
第三小坐し張順ハ第四小坐し弥良を呼く酒を酌する処小二八をり
一人の女忽ち宋江が前小舟に恭しく礼をせし頓く清音を聞くと曲成
唱ひられ李達を呼んで大ひ怒り罵て云我まさら豪傑の身を語り
慰まんと思ふ汝来く一座の奥を妨ぐ莫大の無礼と忽ち指をひく

女が面を輝ききり小彼女忽然として座上に倒れ只昏くして半死の
躰小んえり酒樓の主大に驚く此女の生死も分別さるるが客を皆
拙置又官司へ辨せしと騒ぐる。そ決着次の巻ハ

此巻ハ酒保と云ハ酒店の客の前小侍ハ酒を篩とのあふ。又造
酒家ゆく酒保と云ハ日本ハ俚俗杜氏と云ハ前々の編武
將蔭門神を苦め施恩が怨を報ふ処小中る酒保をいん然れば
酒保の三字を酒肆杜氏との譯さるる。又宋江醉を醒さんと
魚辣湯を望み鮮魚を飲まると日本ハ潮煮ハ辛味を知り
食物カス。通俗忠義水滸傳ハ魚辣湯のて多く只鮮魚を飲ま
とあり又紅魚と書り日本ハ鯛赤魚ハ海魚の名あり。潯陽大江
なりとも海魚ハさるる。此江ハ鯛も金鱗の大鯉魚を紅魚と

新編水辭画傳卷之三拾五
云べういん船来さくらいの水辭傳すゐじでんハ魚辣湯いさらつ辣魚湯らつぎやう二様ふたようあり紅白魚べんぱくぎよ
湯ゆともありあり紅魚べんぎよと云いふといふ。

新編水辭画傳卷之三拾五 畢

新傳
御畫傳
卷之三拾五

